

# 会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 21 年 6 月 25 日(木)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 〇〇分
会議名	上田中央地域協議会(平成 21 年度第 3 回)		
出席者	<p>小林会長、白石副会長、安藤委員、飯島委員、池田委員、一之瀬委員、荻原委員、栗田委員、栗俣委員、佐藤委員、塩入委員、田口委員、竹田委員、中村委員、宮本委員、安井委員</p> <p>(欠席委員) 浅井委員、岡田委員、森田委員、山極委員</p> <p>(事務局) 浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査</p> <p>(視察同行者) 石井リサイクル推進係長、下林廃棄物対策課主任</p>		
会議次第	<p>1 開会(浅野まちづくり協働課地域振興政策幹)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>25 日には市街地の北国街道沿いを歩き、勉強させていただいた。至るところに国や市に登録されている文化財があり、上田の歴史の重みを感じる機会となった。</p> <p>27 日には駒ヶ根の生ごみ堆肥施設を視察研修させていただいた。人口規模的にいうと、中央地域と駒ヶ根市とほぼ一緒である。自然立地的な面から見れば中央地域とは同一の環境にはないが、駒ヶ根市では 自然環境に負荷を与えない。 良質な堆肥を作る。 完全自然循環を図る。という 3 つのポイントを持って、行政のトップ自らが率先してゴミの堆肥化を進めているということが理解できた。非常に有意義であった。</p> <p>また、歴史的資源を活用したまちづくりについては、上田西部地域との合同会議の場を持ちたいと考えている。ご承知おき頂きたい。</p> <p>今日も盛りだくさんの内容があるので、限られた時間の中だが、効果的に進めてまいりたい。</p> <p>3 会議事項</p> <p>(1) 全体会</p> <p>駒ヶ根市視察について</p> <p>【主な感想】</p> <p>(委員) 衛生的に処理していると思った。ところで上田市では、生ゴミ処理の器材は市からの補助があると聞いたが、売れているのか。</p> <p>(廃棄物対策課) 市独自の補助制度がある。生ゴミの堆肥化の処理機の申請だが、平</p>		

- 成 20 年度は 169 件（上田全市域で）あった。容器に関しては 213 件（同）あった。（ごみ減アドバイザー）いろいろ売っているが、環境に配慮をした方法もあるので選択して欲しい。
- （委員）駒ヶ根市は、地区全体がまとまっている印象を受けた。私もできることから始めようと思い、エコハウスから「ぱっくん」を購入した。
- （委員）どんな機械を入れても、生ゴミの臭いはどうしても出てしまう。二次発酵、三次発酵の臭いを住民が我慢できるか。駒ヶ根市では、地域が支援して成り立っているが、上田市ではどうなのか。市民が協調性を持たないと、どこにも施設を造る合意が得られないのではないかと。
- （委員）システムを導入するのに、駒ヶ根市では 2 ヶ月で始められたと聞き、早くて驚いた。市民の意識の違いを感じた。エコポイントや堆肥袋を 1 年間無料にするなど、市民サービスに工夫して進めていく点で、見習うべきことはたくさんあった。ドミソという会社がこれだけの機械を入れて、いつでも見学できるような施設を造った。市から請負ってくれる会社や団体がないと、循環していかないと考えた。
- （委員）生ごみの処分は各市町村で行わなくてはならない環境にあることが、このシステムを実施していく背景にあると思うが、臭いが問題だと感じた。塩田地区で生ゴミの処理を行ったことがあったが、臭いの問題で中止となった。市民合意はなかなか難しいのではないかと。
- （委員）きちんと循環させていくという方針を、市がしっかり持っていることはいいと思った。駒ヶ根市では、年間でゴミ袋の枚数が決まっている。考えてゴミを出すようになるので、ゴミの抑制になるのではないかと。ごみの収集日には「ごみを出さなきゃ」という意識があるのではないかと。
- （委員）南信地域の問題意識が高いと感じた。臭いの問題のある中で、地域の方の合意はすごいと思う。また、行政としてのやる気、心意気がしっかりしていると思った。生ごみの減量に取り組むことが必要と考える。
- （委員）駒ヶ根市の市長以下、行政の姿勢がうかがえたと思う。循環を考えた時に、堆肥の処理はどうするのかと考えなくてはならない。駒ヶ根市の堆肥は、上田市の真田地域で使ってもらっていると聞き、愕然とした。議会の質疑で、民間でゴミ処理の施設を造ったら、行政も何らかの助成はするということを知り、市ではやる気がないともうかがい取れた。
- （委員）下之郷の資源循環型施設は白紙になった。生ごみのウェイトが 3 割から 4 割近くあるので、生ゴミを他の方法で処理し、焼却施設の縮小や分散化などを行政では考えているか。
- （廃棄物対策課）資源循環型施設の関係は、上田広域連合で検討している。今回上田

市が関係したのは、候補地が下之郷ということで、調整を頼まれた。今回、白紙になったことで一旦広域連合にこの問題は差し戻った。広域連合では、10年前のゴミ処理の広域化計画をもとに進められてきた。しかしその後、分別もかなり進み、現状に合わせた形でどの程度の規模のものを造ればいいのか、新たな計画を今作成し始めている。その中で生ゴミの処理についても検討している。

(委員) 結論は出ていないようなのでお聞きしないが、人口も減少してきているし、10年前の様子と随分変わってきている。

(廃棄物対策課) 市としても、生ゴミの減量化が大変重要なことだと認識している。その中で、いくつかの自治会や集合住宅にご協力頂いて、モデル事業を行った。今回の視察で、臭いのあるのを感じた。臭気に関しては、ある程度封じ込められる施設を造れば、外に出なくなる。施設を造ったからには、失敗は許されない。市としてはモデル事業の検証結果を踏まえて、新たなモデル事業を進めていきたいということで検討している。優良な堆肥を作り、その堆肥を農家の方に使っていただく、その循環がしっかりできないと難しい。慎重とも取れるかもしれないが、実証実験を踏まえて優良な堆肥が出来たとき、次のステップに進めていきたい。

(事務局) 関連して、7月8日にごみ減量化問題に関する学習会が開催される。都合をつけて出席いただきたい。

#### 北国街道を調査したDVDの紹介

～DVD鑑賞～

平成10年から13年にかけて、社団法人長野県建築士事務所協会上小支部で調査研究したもの。北国街道沿いの建物を中心に、調査されている。

過去に、調査・研究された例も頭に入れながら理解を深めていきたい。

中央地域～西部地域にかけて見られる建築物の確認。

#### (2) 分科会協議

#### (3) 分科会からの報告

##### 【協議内容】

- ・第一分科会：歴史的な資源を保全・活用したまちづくり

前回まち歩きをした時の写真を見ながら、資源の確認をした。北国街道の歴史的資源を、東御市の海野宿から柳町まで、道路沿いに何があるのか明確にしていきたい。西部地域でも歴史的な遺産を研究している分科会があるというこ

とで、西部地域との協議も考えている。

わがまち魅力アップ応援事業で採択となった、信濃国分寺の「はすのフェスタ」の参加（検証）に合わせて、周辺のルートを歩きたい。ご参加できる方はお願いしたい。

・第二分科会：自然環境保護及びこみ減量化問題

先日の駒ヶ根市の視察から、現地を実際に見ることは大事だと考え、他にも臼田や佐久のほうで行っているところがあるので検討している。

7月8日の上田環境市民会議の、生ゴミを出さないという勉強会に参加することとしたい。

4 連絡事項等

・次回会議の開催

平成 21 年 7 月 23 日（木）開催予定

閉 会